

久留米工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	専攻科インターンシップ	
科目基礎情報							
科目番号	0113			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	実習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	機械・電気システム工学専攻（機械工学コース）			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	実習内容に関連する文献、資料など						
担当教員	谷野 忠和,江頭 成人,津田 祐輔,奥山 哲也,山本 郁,金城 博之						
到達目標							
1. 技術が社会に及ぼす影響・効果、技術者が社会に対して負っている責任を理解できる。 2. 実験などを計画・遂行し、その結果を解析し、工学的に考察することができる。 3. 該当分野の専門技術に関する知識を得て、それらを問題解決に応用することができる。 4. 日本語による論理的な記述を行ったり、口頭発表や討議などを行うことができる。 5. 自主的、継続的に学習することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	技術が社会に及ぼす影響・効果、技術者が社会に対して負っている責任を理解できる。			技術が社会に及ぼす影響・効果、技術者が社会に対して負っている責任をある程度理解できる。		技術が社会に及ぼす影響・効果、技術者が社会に対して負っている責任を理解できない。	
評価項目2	実験などを計画・遂行し、その結果を解析し、工学的に考察することができる。			実験などを計画・遂行し、その結果を解析し、工学的に考察することがある程度できる。		実験などを計画・遂行し、その結果を解析し、工学的に考察することができない。	
評価項目3	該当分野の専門技術に関する知識を得て、それらを問題解決に応用することができる。			該当分野の専門技術に関する知識を得て、それらを問題解決に応用することがある程度できる。		該当分野の専門技術に関する知識を得て、それらを問題解決に応用することができない。	
評価項目4	日本語による論理的な記述を行ったり、口頭発表や討議などを行うことができる。			日本語による論理的な記述を行ったり、口頭発表や討議などを行うことがある程度できる。		日本語による論理的な記述を行ったり、口頭発表や討議などを行うことができない。	
評価項目5	自主的、継続的に学習することができる。			自主的、継続的に学習することがある程度できる。		自主的、継続的に学習することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
JABEE F JABEE G-1 JABEE H							
教育方法等							
概要	本学科と専攻科で学んだ工学的知識や技術が、実践的にどの程度応用できるかを、企業等におけるインターンシップで経験し、実践的技術者としての資質を高めることを目的とする。各学生は企業からの評価を受け、その結果を参考にし、学生の自己啓発および専攻科の教育改善を促す。						
授業の進め方・方法	提示したインターンシップ受け入れ機関の中から、学生の希望と諸条件を考慮して、配属先の引き受け機関を決定する。実施時期は休業期間中の3週間以上を原則とする。企業や研究機関などにおいて実際の業務に従事する。担当教員は、学生の状況を把握するとともに、実施機関の引き受け責任者と連絡を密にする。学生は、インターンシップ終了後に報告書及び実施機関の引き受け責任者が記入・封印した評定書を提出する。						
注意点	複数のインターンシップ関連教員により次の割合で成績評価を行う。報告書20%、実施機関の評定書40%、報告会40%として総合的に成績評価を行う。具体的な評価項目、配点および評価基準については別途定める。 評価基準：60点以上を合格とする。 再試験は行わない。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	企業での業務による				
		2週					
		3週					
		4週					
		5週					
		6週					
		7週					
		8週					
	2ndQ	9週					
		10週					
		11週					
		12週					
		13週					
		14週					
		15週					
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
専門的能力	専門的能力の実質化	インターンシップ	インターンシップ	企業等における技術者の実務を理解できる。	3	前1	
				企業人としての責任ある仕事の進め方を理解できる。	3	前1	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を総合的に判断することの重要性を理解できる。	3	前1	

				企業における社会的責任を理解できる。	3	前1
				企業活動が国内外で他社(他者) とどのような関係性を持つかを理解できる。	3	前1
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを理解できる。	3	前1
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができ、それを高めようと努力する姿勢をとることができる。	3	前1
				コミュニケーション能力や主体性等の「技術者が備えるべき能力」の必要性を理解できる。	3	前1
				実際の企業人等との仕事を通して自身のキャリアデザインを明確化することができる。	3	前1
				社会経験をふまえ、企業においても自分が成長していくことが必要であることを認識できる。	3	前1
				実務体験を企業や職種とのマッチングの場として考えて積極的な行動ができる。	3	前1
		共同教育	共同教育	クライアント（企業及び社会）の要求に適合するシステムやプロセスを開発することができる。	3	前1
				企画立案から実行するまでのプロセスを持続可能性の実現性を配慮して実行することができる。	3	前1
				品質、コスト、効率、スピード、納期などに対する視点を持つことができる。	3	前1
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識・教養が、企業及び社会でどのように活用されているかを理解し、技術・応用サービスの実施ができる。	3	前1
				地域や企業の現実の問題を踏まえ、その課題を明確化し、解決することができる。	3	前1
				問題解決のために、最適なチームワーク力、リーダーシップ力、マネジメント力などを身に付けることができる。	3	前1
				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などの必要性を理解できる。	3	前1
				技術者として、生きる喜びや誇りを実感し、知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践創造的な活動を楽しむことを理解できる。	3	前1
				技術者として、社会に対して有益な価値を提供するために存在し、社会の期待に十分応えられてこそ、存在の価値のあることを理解できる。	3	前1
				企業人としても成長していく自分を意識し、継続的な自己研さんや学習が必要であることを理解できる。	3	前1
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	3	前1
				集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	3	前1
				日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	3	前1
				ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	3	前1
				学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	3	前1
				市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	3	前1
				チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	3	前1
				組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	3	前1
				先にたって行動の模範を示すことができる。口頭などで説明し、他者に対し適切な協調行動を促し、共同作業・研究をすすめることができる。	3	前1
				目指すべき方向性を示し、先に立って行動の模範を示すことで他者に適切な協調行動を促し、共同作業・研究において、系統的に成果を生み出すことができる。リーダーシップを発揮するために、常に情報収集や相談を怠らず自身の判断力をも磨くことができる。	3	前1
				法令を理解し遵守する。基本的人権について理解し、他者のおかれている状況を理解することができる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識している。	3	前1
				法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解できる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。	3	前1
				未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会の在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。	3	前1

				技術の発展と持続的社会的な在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができるとともに、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることが考慮できる。	3	前1
				工学的な課題を論理的・合理的な方法で明確化できる。	3	前1
				公衆の健康、安全、文化、社会、環境への影響などの多様な観点から課題解決のために配慮すべきことを認識している。	3	前1
				クライアントの要求を解決するための設計解を作り出すプロセスを理解し、設計解を創案できる。さらに、創案した設計解が要求を解決するものであるかを評価しなければならないことを理解する。	3	前1
				クライアントの要求を解決するための設計解を作り出すプロセスを理解し、設計解を創案できる。さらに、創案した設計解が要求を解決するものであるかを評価しデザインすることができる。	3	前1

評価割合							
	報告書	実施機関の評定書	報告会	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	20	40	40	0	0	0	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	0	0
専門的能力	20	40	40	0	0	0	100
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0